

令和8年度
江南市小学生
平和教育研修派遣報告書



令和8年8月5日～6日 広島

江南市教育委員会

も く じ

1	はじめに	団 長 片 岡 好 美	1
2	平和教育研修派遣団員名簿		1
3	日程表		2
4	感想レポート		
	「平和のためにできること」	高 田 龍之輔	3
	「平和記念式典に参加して」	松 本 健	3
	「あの日を伝える原爆ドーム」	山 下 菜々花	4
	「核兵器のない平和な世界を作るために」	大 西 咲 楽	4
	「平和のために語り継ぐ」	蟹 江 梨 華	5
	「平和教育研修で学んだこと」	松 山 愛 大	5
	「折り鶴に願いを込めて」	中 山 優 杏	6
	「原爆の恐ろしさと平和の大切さ」	西 尾 桃 李	6
	「平和の尊さを伝える」	前 田 聡太郎	7
	「8月6日午前8時15分 あの時何があったのか」	苅 部 鈴 央	7
	「生きたいという願い」	須 賀 結 翔	8
	「原爆ドームから感じたこと」	上 井 悠 生	8
5	おわりに	副団長 水 谷 哲 也	9

は じ め に

8月5日、私たちが訪れた広島記念公園は酷暑にもかかわらず、諸外国から多くの方が訪れていました。現地ガイドさんの解説や平和記念資料館の見学を通して、81年前、たった一発の原子爆弾が広島を瞬時に破壊し、多くの尊い命が失われた惨状がリアルに想像されました。特に、被爆者団体事務局長の田中聡司さんの講話は、その光景が目には浮かび胸が締め付けられました。改めて、核兵器の恐ろしさと廃絶の実現、世界恒久平和への想いが私たちの心に直接響き、心を大きく揺さぶられるものでした。

8月6日に参列した平和記念式典では団員と同じ小学6年生が平和への誓いを述べました。「私たちには、広島の子供たちとして、行動する責任があります。相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。」と力強く語った姿が、今でも心に残っています。

広島を訪れた経験は団員の皆さんにとっては、平和とは何かを深く考える機会になったと確信しています。ぜひ自分の言葉で、研修での学びを伝え、世界を変える平和への一歩を踏み出してほしいと思います。また、これからの人生のどこかで平和に関わる活動に向け行動を起こすことが広島で平和のバトンを受け継いだ皆さんの重要な役割だと私は思います。

今回の派遣に際し、12名の団員はもちろん、引率者3名も貴重な体験をさせていただくことができました。ご尽力いただいた江南市・江南市教育委員会をはじめとする関係機関の皆様、団員を支えてくださった保護者の皆様や学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和8年8月 団長 片岡 好美

.....

平和教育研修派遣団員名簿

団 長	古知野東小学校	校 長	片 岡 好 美		
副 団 長	古知野東小学校	教 諭	水 谷 哲 也		
養護教諭	古知野西小学校	養護教諭	後 藤 真 由		
団 員	古知野東小学校	高田 龍之輔	古知野東小学校	松 本 健	
	古知野西小学校	山下 菜々花	古知野南小学校	大 西 咲 楽	
	古知野南小学校	蟹 江 梨 華	古知野北小学校	松 山 愛 大	
	布袋小学校	中 山 優 杏	布袋小学校	西 尾 桃 李	
	布袋北小学校	前田 聡太郎	宮田小学校	荏 部 鈴 央	
	草井小学校	須 賀 結 翔	門弟山小学校	上 井 悠 生	

日 程 表

8月5日(水) 研修1日目

時 刻	交通機関	行 程
7 : 1 5		市役所正面玄関集合
7 : 2 0		出発式
8 : 1 5	名古屋鉄道	名鉄名古屋駅へ
9 : 1 7	新 幹 線	のぞみ121号 : 広島駅へ 昼食 車内弁当
12 : 0 2	広島電鉄	原爆ドーム前駅へ
12 : 3 5	徒 歩	平和記念公園内見学 ガイド：楠本さん 原爆の子の像にて折り鶴奉納 原爆ドーム、原爆供養塔、平和の鐘などを見学 平和記念資料館見学
15 : 4 5	バ ス	講話会場へ
16 : 0 0	徒 歩	被爆者体験講話 講 師：田中 聡司さん
17 : 0 7	広島電鉄	広島駅へ
17 : 3 0	徒 歩	夕食 ひろしまお好み物語
18 : 4 4	バ ス	グランドプリンスホテルへ
19 : 2 7		ホテル着、打合せ会
21 : 3 0		消灯

8月6日(木) 研修2日目

時 刻	交通機関	行 程
5 : 3 0		起床
6 : 0 0		朝食
6 : 4 5	タクシー	平和記念公園へ
8 : 0 0		広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式に参列
8 : 5 0	徒 歩	土橋駅へ
9 : 2 6	広島電鉄	宮島口駅へ
10 : 4 0	JR西日本フェリー	宮島港へ
10 : 5 0	徒 歩	宮島・厳島神社にて見学
12 : 0 0		昼食 鳥居屋
13 : 5 5	JR西日本フェリー	グランドプリンスホテルへ
14 : 3 6	バ ス	広島駅へ
15 : 4 9	新 幹 線	のぞみ178号 : 名古屋駅へ
18 : 2 3	名古屋鉄道	江南駅へ
18 : 5 0	徒 歩	駅前用地にて帰着式
19 : 0 0		解散

「平和のためにできること」

古知野東小学校 高田 龍之輔

「核兵器に運命を握られるような社会を変えなければならい。」これは、被爆者の方から聞いた話の中で、僕が一番印象に残った言葉です。この言葉を聞いて、核兵器は人の命を奪うだけでなく、その人や家族の人生まで大きく変えてしまうものなのだと思います。被爆者だからと差別を受けたり、原爆によって大きな病気に罹ってしまったことへの苦しみが伝わってきました。僕は、今まで広島原爆について学んできましたが、実際に被爆者の方の話聞くことで、核兵器の恐ろしさをより身近に感じました。僕達が平和に暮らしている今日は決して当たり前のものではありません。被爆者の方の思いを忘れず、核兵器によって人々の運命が左右されてしまう社会を変えていくために、まずは戦争や平和について学び続けることが大切だと思います。そして戦争や核兵器のない平和な世界を築くために自分に何ができるかを、これからも考え続けていきたいです。



「平和記念式典に参加して」

古知野東小学校 松本 健

今回、特別に平和記念式典に参加することができ、普段ではなかなかできない貴重な経験ができて嬉しく思います。

印象に残ったことは僕と同じ歳の小学生が、広島県の代表として平和について一生懸命に考え話していたことです。

高市早苗首相のスピーチもとても力強く、画面越しにしか姿は見えませんでした。平和への祈りが伝わってくるようでした。

暑い中ではありましたが、厳かな雰囲気の中、国を挙げて行われる式典に参加できたことは僕の人生の中でも貴重な経験だと思います。また世界中の人々がこの式典に関心をもっていることを知り、改めて平和について気持ちが引き締められました。



「あの日を伝える原爆ドーム」

古知野西小学校 山下 菜々花

1945年8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が落とされ、爆心地から約160メートルの場所にあった「広島県産業奨励館」は大きく壊されました。それが原爆ドームです。

81年後の8月5日、私は原爆ドームを訪れました。実際に見て、写真で見るよりもずっと悲惨な状態だと感じました。鉄やパイプも曲がっていて、たった一発の原子爆弾で立派な建物がこれほど壊れ、人間の命も一瞬で失われてしまうことに、戦争の恐ろしさを実感しました。被爆者の中には原爆を思い出したくないという思いから、原爆ドームをなくしたいと考える方もいることを知りました。私は、原爆ドームを残すことは同じ悲しみをくり返さず、次の世代へ平和の大切さを伝えていきたいという願いであると感じました。



「核兵器のない平和な世界を作るために」

古知野南小学校 大西 咲楽

平和教育派遣で資料館を見学したり被爆体験談を聞いたりして戦争の残酷さを感じました。最も戦争の残酷さを感じたのは原爆の子の像を見たときです。モデルの佐々木禎子さんは原爆の影響で12歳で亡くなりました。原爆によって、「生きたい」と願っても命を落としていく私たちと同じ年齢くらいの人々の存在を知り、胸が締め付けられました。愛知県では学べなかった大切なことを現地で学びました。

平和記念式典ではこども代表の平和への誓いの「平和とは、誰かからあたえられるものではなく、世界中の人々で創り上げるものです。こどもである私たちも、その一員として平和への一步を踏み出します。」という言葉が強く心に響きました。自分たちが小さなことから始めてこの悲しい出来事を二度と起こさないようにしたいという思いが込められていると実感しました。戦争を体験した方たちの思いを戦争の知らない次の世代にも伝えていこうと思いました。



「平和のために語り継ぐ」

古知野南小学校 蟹江 梨華

被爆体験の話をしてくださった田中さんは、戦争中に両親と離れて過ごしていてとても悲しい思いをしていたと言っていました。そして、お母さんは原爆で生き残ったけれど、その後は健康被害に苦しんでいたと聞きました。

話の中で一番印象に残ったことは、原爆が落とされた後、食料や水がなかったけれど、闇市場があったということです。小学生は学校から帰った後、法律で禁止されていたけれど闇市場に行き食料を求めました。けれど、お腹を壊す子どもたちが増えお母さんたちは闇市場に行っていることに気が付きました。子どもたちはひどく怒られていたそうです。田中さんは、生き延びることができて安心と一瞬思った時期があったそうですが、今では再び戦争が起きてしまうかもしれないという危機感を抱いているそうです。

体験はしていないけれど、被爆者の話を聞いてみると悲しさや悔しさ、戦争の怖さ、命の大切さがしっかりと分かりました。原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝えていきたいです。



「平和教育研修で学んだこと」

古知野北小学校 松山 愛大

平和教育研修で学んだことは、今ぼく達が平和で過ごせていることは当たり前ではないということです。平和教育研修では原爆ドームや平和記念資料館に行ったり、被爆者体験講話や平和記念式典に参加したりしました。原爆は1945年8月6日8時15分に広島に落とされ、街は崩壊しました。資料館や原爆ドームで見たものには衝撃を隠せませんでした。ボロボロになった衣服、曲がった瓶、弁当箱や三輪車がありました。たった爆弾一つで、14万人も亡くなりました。



被爆者体験講話では、実際に被爆された田中さんという方に話していただきました。田中さんは1歳の頃に被爆しました。原爆が落とされた直後には街は焼け野原になっており、自分の家もわからない状況になっていたらしいです。原爆ドームに「父ちゃんは帰るからね。」と書いて息子、娘の帰りを待つ人もいたらしいです。

式典では高市早苗内閣総理大臣が、原爆について話したり、こども代表が平和への誓いをしたり、原爆死没者名簿を奉納したりしました。これらの原爆に関するところに行って感じたのは、今ぼく達が平和に過ごせているのは当たり前じゃないということです。これを次の世代に繋いで行きたいです。

「折り鶴に願いを込めて」

布袋小学校 中山 優杏

1945年8月6日8時15分、広島に一発の原子爆弾が落とされ、多くの命が失われました。被爆者の一人である佐々木禎子さんは広島で生まれ、2歳の時に爆心地から1.6キロ離れた自宅で被爆しました。体調の異変もなく元気にすごしていました。しかし、9年後の小学6年生の時に、白血病と診断され病院に入院して、回復を願って鶴を折り続けましたが1955年の秋に亡くなりました。



その後、貞子さんの死をきっかけに原爆で亡くなった子供たちの霊を慰め平和を築くため「原爆の子の像」をつくろうという運動が始まり、全国からの募金で「原爆の子の像」が完成しました。鶴が奉納されている部屋には多くの鶴が奉納されていて、多くの人が平和を願っていると感じました。あらためて原爆の恐ろしさを多くの人に知ってもらい、自分事として考えていくことが平和への第一歩だと思います。

「原爆の恐ろしさと平和の大切さ」

布袋小学校 西尾 桃李

今回の研修では、広島市の平和記念公園を訪れ、原爆について学びました。平和記念公園内には「被爆ピアノ」、「平和の灯」、「原爆の子の像」、「被爆アオギリ」、「平和記念資料館」などがあり、これらを実際に見てきました。また、毎年8月6日に行われている平和記念式典にも参列しました。



平和記念資料館では、原爆が落とされた後の服や、熱でぐちゃぐちゃになった瓶、黒い雨、放射線についての展示を見ました。また、その時に起きたことを絵で表現したものや、亡くなった生徒、救護所の惨状などから、原爆による被害の大きさを知りました。特に印象に残ったのは被爆ピアノと被爆アオギリです。原爆の記憶を伝えるものが今も残っていることを知りました。

今回の学習を通して、原爆の恐ろしさと平和の大切さをあらためて実感しました。これからも平和について学び、平和を大切にしていきたいです。

「平和の尊さを伝える」

布袋北小学校 前田 聡太郎

平和記念式典では、戦争で亡くなった方達への黙祷が行われました。会場はとても静かで、参列者の方々からは、世界から戦争がなくなり平和になってほしいという願いが感じられました。こども代表の「私たちには、被爆体験を直接聞くことができる最後の世代として、目をそら



さず、知ろうとすること」という言葉を聞いて、私は今生きている自分たちが過去の出来事をしっかり受け継いでいかなければならないと思いました。

被爆した人たちが体験した苦しみや悲しみを知ること、戦争の恐ろしさを忘れず、二度と同じことを繰り返してはならないと強く思いました。平和記念式典で学んだことを心にとめて、これからも平和の尊さを伝えていきたいです。

「8月6日午前8時15分 あの時何があったのか」

宮田小学校 荻部 鈴央

アメリカの爆撃機が落とした原子爆弾によって広島市は一瞬にして廃墟になり、14万人もの命が奪われました。江南市の人口は大体9万8000人くらいなので江南市に住む人より多くの人が一瞬にしていなくなってしまったのです。広島平和記念資料館には、世界中の人々に原爆による被害や平和の尊さについて考えさせる資料がたくさんありました。私が特に印象に残っている展示は、原爆でなくなった子どもたちの遺品です。私たち小学生より小さな子のものもありました。子どもたちが被爆時に身に着けていたもの、遊んでいたもの、



食べていたもの。それらからは、子どもたちや助けてあげられなかった家族からの魂の叫びが聞こえてくるような気がしました。原爆のせいで失われたものは人の命だけではなく。夢や希望、広島市にあったものすべてが被害を受けたのです。そんな恐ろしい原爆、核兵器を世界中からなくすために、今も広島平和記念資料館はあの時何があったのかを語り続けています。今回の研修に参加して、原爆、そして戦争のせいで何が起きたのか、広島で感じたことを身近な人に伝え、平和への小さな一歩を踏み出していきたいと感じました。

「生きたいという願い」

草井小学校 須賀 結翔

8月5日、広島市の平和記念公園内にある「原爆の子の像」のブースへ、団員みんなで心を込めて折った千羽鶴を奉納しました。実際に像の前に立つと、世界中から届いた折り鶴が、ブースいっぱいに飾られていました。その光景を見た時、世界中の人たちの平和を願う心がこの場所に集まっているのだと感じて、とても感極まりました。私たちがささげた折り鶴も、大きな平和の輪にしっかりつながっているのだと思うと、とても誇らしい気持ちです。



一番印象に残っているのは、像のモデルになっている佐々木禎子さんが生きたいという思いで鶴を折り続けたということです。しかし禎子さんは1955年10月25日午前9時57分に赤十字病院の病室で静かに息を引き取りました。それは世界にとってとても悲しいことになりました。

一発の原子爆弾によって、一瞬にして多くの夢、命が奪われてしまった悲しみを決して忘れず折り鶴に込めた平和の願いを、これからもずっと未来へつないでいきます。

「原爆ドームから感じたこと」

門弟山小学校

上井 悠生

僕は平和教育研修派遣で広島へ行き、平和記念公園内にある原爆ドームを見学しました。原爆ドームの建物は、鉄骨がむき出しになっていて、外壁もボロボロにくずれていて、戦争のきずあとがとても生々しかったです。原子爆弾の破壊力のすごさや熱線のおそろしさを、直接感じることができました。実際の建物や町の被害の様子を目にすることで、戦争についてもっと深く考えることができました。



こんなに悲しくておそろしいことは、二度と起こしてはいけないと強く思いました。僕が自分の目で見て肌で感じた原爆ドームの姿や、戦争の怖さを、家族や学校の友達など、周りのたくさんの人たちにしっかりと伝えていきたいです。

お わ り に

8月5日、市内12名の代表児童は「平和を伝えるリーダー」として、広島を訪れました。出発前の事前研修を通して、団員各自が「平和とは何か」、「世界中で折り鶴が折られている意味は何か」などについて調べ、意見交流を重ねてきました。

そうした「問い」を持って訪れた広島では、数々の本物に出会う貴重な体験をすることができました。平和記念公園では、現地ガイドの方から原爆ドームや原爆の子の像、被爆樹木や被爆ピアノについて、臨場感のある解説をしていただきました。大変暑い中でしたが、熱心に話に耳を傾け、メモをとる姿からは、自らの問いを解決しようとする平和を伝えるリーダーとしての自覚を感じました。そして、被爆体験者の講話では、「戦争は決して過去の出来事ではなく、現在も続いていること、85秒先は分からない時代に生きていること」というメッセージを受け取り、子どもたちは改めて戦争や平和を「自分事」として感じる事ができたように思います。

「今、世界に求められているのも、対立や暴力ではなく、信頼と協力によって平和を築いていく、この精神です。」式典で広島県知事が語った一節です。今回の研修で、別々の学校に通う仲間と協力し、戦争や平和について共に語り合った体験こそ、平和な世界を築いていくかけがえのない礎となります。それぞれが各学校で「平和を伝えるリーダー」として活躍してくれることを期待しています。最後に、子どもたちと共に平和について考える貴重な機会を与えていただいたことに感謝を申し上げます。

令和8年8月 副団長 水谷 哲也



